

英 語 科

教科研究主題

学びを共創・発信できる言語使用者の育成

公開授業 学級：3年2組 授業者：川久保 哲平

単元名：Stage Activity 2 Discover Japan

(教科書名：New Horizon English Course 3 東京書籍)

授業の見どころ①大単元構想でディベートを攻略!!

New Horizon English Course 3 では、3年間の言語活動の集大成としてディベートが設定されています。しかし、このディベートこそが、生徒にとっても、教師にとっても高いハードルとなっています。そんな高いハードルを何とかしたいと思い、大単元構想をひらめきました。「大単元構想って何？」と思われたでしょう。「全ての道はローマに通ず」という言葉があるように、全ての単元（正しくは Unit4 からの全ての単元）がディベートに通ずるよう計画してみました。「それがどういいの？」と思われたでしょう。ディベートを最終ゴールに設定した大単元をつくることで、複数の単元を通して繰り返し活用しながらディベートに必要な知識・技能を仕込んでいきます。そうすることで、ディベートの高い壁に立ち向かう負担が軽減され则认为ました。もう少し詳しく言えば、“Japan is a good country to live in.” というテーマを「防災」を扱う単元でも、「平和や人権」を扱う単元でも意識させていきます。研究発表当日は、「外国人留学生に日本が選ばれる国であるか」について生徒が意見を出し合い、日本の魅力と課題を生徒が発見する単元となるようにしたいと思います。「日本に住むことの魅力」について、複数の単元を通して一貫して考えていくことが、ディベートへのハードルを下げるとともに、ディベートの内容の深まりにつながると考えています。

授業の見どころ② ウェルビーイングというゴールを目指して！

多様な個人がそれぞれの幸せや生きがいを感じるとともに、集団や学校、地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態。それがウェルビーイングです。

毎年3月20日に「世界幸福度報告（World Happiness Report）」による「世界幸福度ランキング」が発表されます。2024年の同ランキングで日本は、143カ国中51位となり、前年度47位から順位を下げました。人生の選択の自由度や寛容さに課題があることが示されました。そこで、次世代のリーダーとなる生徒たちに問いかけます。「現実はどうだろうか？」

生徒は、各単元の「問い」について自分の意見をまとめ、教材に対しての考えを深めています。さらに、ウェルビーイングの視点から多面的・多角的に現実を捉え、再び教科書の題材と向き合います。そして、現状の問題や事態の深刻さから、「自分たちには何かできることはないだろうか」と自ら学びを広げ、深めていきます。これまでの単元で繰り返し生徒が考えてきたウェルビーイングに向かうための方策。果たして今回、生徒たちは外国人留学生が直面する課題に対して、解決策は見いだせるのでしょうか。